

園長だより NO99

居心地が良い所で育つ

めろん組さん ご卒園おめでとう。

卒園式を終えてから 10 日ほどが経とうとしています。子ども達は一段落、一区切りをつけて残る保育園生活を仲間と共に満喫しています。睡眠時間を除けば家庭よりも保育園で過ごす時間が長い、子ども達の生活の拠点は保育園であり、居心地のよい場所でなければなりません。

仲間との生活、集団での規律や約束事はあるものの、生活のなかで理不尽な我慢や自分の感情を抑え込んでしまっただけでは居心地の良い場所にはならない。今でも時折、喧嘩はあるもののできるだけ子ども達で解決し、トラブルの修正を図れるようになってきている。

「喧嘩するほど仲が良い」と昔から言い伝えられることわざがある。喧嘩をしても関係性が崩れないという意味に私はとらえている。大人になると人の目を気にしたり、言いたいことも言えずにストレスをかかえることも多々ある。もし、あの時、ひとこと言っておけば事態は急変したのにとということもあるはずである。

子ども達の生活では大人程「空気を読む」ことはない、感じたこと、思ったことを素直に表現する。伝える方も伝えられる方も そんなやりとりの経験は少ない、ストレートすぎ

るあまり子ども同士、その思惑がずれ、喧嘩がはじまる。泣いて怒って、感情が高揚する。時には自分でコントロールできないほどに感情が起伏する。幼児期にはよく見られる光景であり、その感情の起伏を体験することで自分の感情のコントロールが徐々にできるようになってくると思っている。

俗にいうよい子からの脱却、ありのままを素のごとく体験しなければ「自分を知ることはできない」聞きわけのよい子で物分かりのよい子では「自分を知る機会を逸してしまう」そんなことを時折、私の頭をめぐらせる。

子どもらしくとはなんだろう、本来、子どもは自己中心的でだだをこね、やりたいことだけをとことんやり、好きなものを独占し、遊びたいだけ遊ぶものと心得ている。

保育園に入園し自分の他（他者）を通じて自分の様々な感情や他者とのかかわりによる思いもよらぬ自己感情や行動に出会う。

物のとりあい、保育士への依存や友達とのかけひき、喜怒哀楽の感情、居てもたっていられない、自分では制御できない感情、情緒の起伏を経験して少しずつ穏やかに過ごせる術を体験して学んでいく。

おおぞら保育園の先生は実に忍耐強いと思っている。できるだけ子ども達の見せる姿や思いに付き合っているからである。集団での生活で有るがゆえにみんなで〇〇するということは大前提ではあるが時に大前提は弾力的

に覆される。その子のしたい事、まだやってほしいことを大人は優先して対応している場面を毎日みかける。限られた保育士の数でその対応をすることはクラス運営上、大変といえるでしょう。愚痴も言わず、当たり前のように接している保育士（先生）には感謝である。

一台の車が教えてくれたこと

玄関に車の玩具がおかれている、子ども一人が乗れる大きさのものである、近所の方に息子、孫の代まで使っていたもの（半世紀前のもの）を譲り受けることになり 1 年近く玄関に置かれている。

乳児クラスの子供達は 2 F ホールから帰ってくると必ず数名がその車で遊びたいと足止めされる。保育士からすれば魔のゾーンである。順調にお部屋に帰りたところではあるが見事にトラップにかかり遊び出してしまう、1 台しかない事も拍車をかけ、取り合い、押し合いのトラブルも発生する、私は無責任で事務室からその光景をみている。先生はどんな心情でいるのかな？この場面をどう対応するのかな？本当は 1 日も早く撤去してほしいと思っているはず、30 分、1 時間近く遊んでいた年度当初に比べると、程よく子ども達は折り合いをつけ保育室に戻るようになっていく。

先生方の忍耐強いかわりから、または子ども達が見せる姿から大人も子どもも学び、

関わりや感情の起伏の操作を学習しているの

でしょう。子どもにも大人にも玄関の 1 台の車から多くの体験をしている。もし、子どもの心情に寄り添わない保育士であれば「今は遊ぶ時間じゃない」「すぐに終わらせてね」「もうご飯だから」とねちねちともっともな声がけをし、挙句の果てには抱きかかえてその場を去るなんていう姿を見せているでしょう。

当初、心の中は穏やかではなかったと思います。「園長 なんてこんなところに置くかなー」と心の声が聞こえてきましたが・・・

昨今、子どもの主体を考え、子どもに寄り添い、応答的に対応し保育することの大切さが言われていますが実践することの難しさを感じることもあります。

それぞれの子どもは違い、それぞれの思いも異なる。集団生活では一つのものごとに向いて活動する方向を示しますし、進めていこうとする。4・5 歳児になれば物事の道理が子どもなりに理解され目的のために取り組もうとする姿が養われてきますがこの世に生まれ数年の子ども達には丁寧な関わりが必要でありそれぞれの心情を理解することに努めていくことを怠っていけないと思います。

居心地の良い場を作り続けることはまだまだ続きます。令和 5 年度、保育へのご理解、ご協力ありがとうございました。

(おおぞら保育園 園長 廣部信隆)



2024.3.27

